

「ESDの10年」後の環境教育推進方策検討会
第1回発表資料（2014.01.30）

資料3(1)

ポストDESDに向けた提言

阿部 治

立教大学ESD研究所長

日本環境教育学会長

認定NPO法人 ESD-J代表理事

ESD世界の祭典推進フォーラム代表理事

HESD-J(ESDのための高等教育フォーラム)代表

自己紹介を兼ねたESDとの関わり

- 大学院で環境教育を専攻し、その後、35年以上にわたって環境教育の教育・研究・普及に従事
- その過程で、「人と自然」、「人と人」、「人と社会」の関係の改善を目指した「持続可能な社会のための総合的環境教育」=「関係性教育」、「つながり教育」(今で言うESD)を90年頃から提唱
- 特に地球環境戦略研究機関(IGES)の環境教育プロジェクトリーダー(1998-04)として、アジア太平洋地域における持続可能な開発のための環境教育の推進戦略策定プロジェクトに従事し、ESDの戦略研究に従事
- 2002年のヨハネスブルグサミットの市民推進組織(ヨハネスブルグサミット提言フォーラム)に理事として参画。DESDの政府・国連への提言活動に従事。バリのサミット準備会合、サミット本番でのESD会合等を通じて、DESDの組織化に尽力
=中環審小委員会答申、文科省環境教育指導資料等に反映
- サミット後、政府のカウンターパートを担うESD推進ネットワーク組織としてESD-J(持続可能な開発のための教育の10年推進会議)を設立、さらに産官学民のオールジャパンによる最終年会合開催のために「ESD世界の祭典推進フォーラム」を設立し、ESDの普及ならびにポストDESDのESD推進の仕組みづくりに従事
- DESDの中間会合(ボン、2009)に国際諮問委員として参画

日本におけるESDの到達点と課題

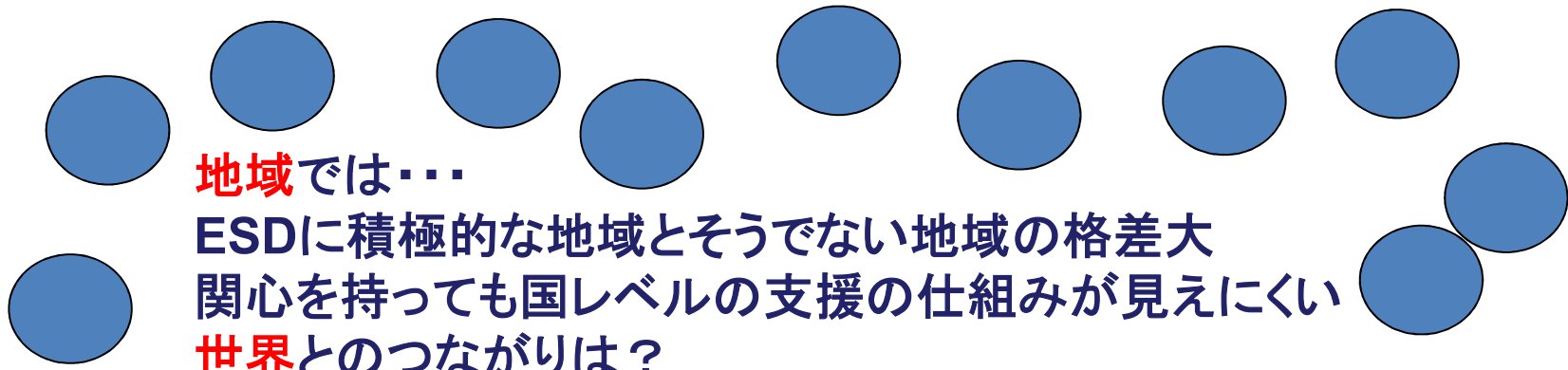
到達点

- 官民の**推進組織**の発足(ESD-J、省庁連絡会議等)
- **学校教育**(初等・中等・高等教育)での展開
- 持続可能な**地域づくり**(地域のレジリエンスの強化)につながるESDの展開(自治体、推進協議会、自然学校等)
- **多様な連携・協働**によるESDの展開(マルチステークホルダーアプローチ)
- 企業におけるESDの展開(CSR、ISO26000等)
- ESDを通じた教育の質の見直し(参加・体験、協同学習等)
- 国際的イニシアティブの発揮(RCE等)

課題(ESDの10年後の推進方策)

- いずれの取り組みも**未だ途上**にあり。かつ**バラバラに展開**されており、つながりというESDの特徴が生かされていない。このままではDESD終了と共に**ESDは失速**しかねない
- **ポストMDGs(国連SDGs)**における**日本のプレゼンス**を示す格好の機会を生かし切れていない
⇒**ポスト2014:ESD推進の仕組み(ナショナルセンター)が不可欠**

<現状> 2013年現在のESD推進体制の課題



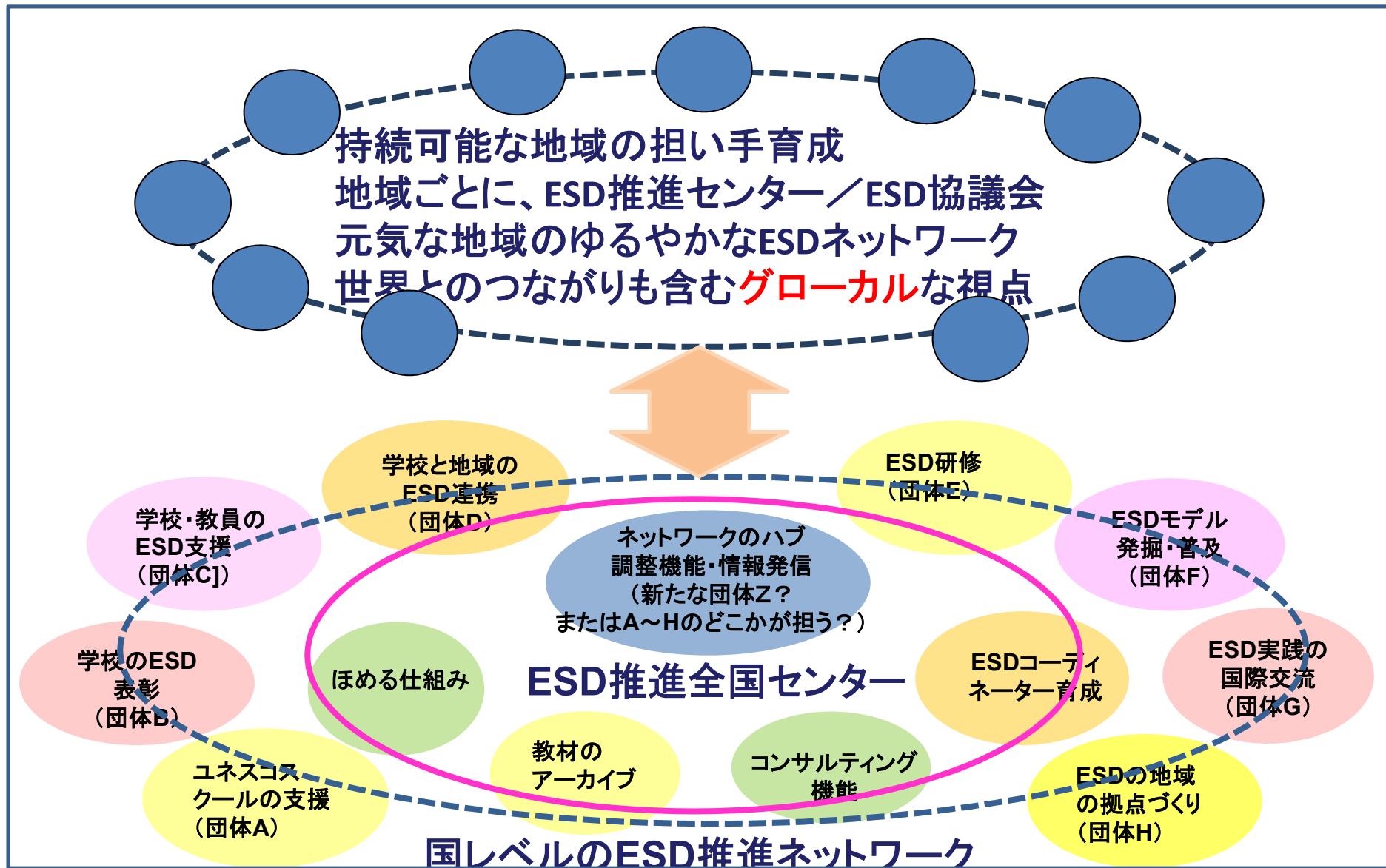
つなぐことがESDなのに、推進する個人や組織・事業がつながっていない



国レベルでは・・・
文科・環境等関係省庁や民間の施策・事業がそれぞれバラバラ

(ESD-J作成図に阿部が加筆)

提案A ESDを強力に推進していくために、望ましい仕組み



(ESD-J作成図に阿部が加筆)

提案B ESDを連携して推進していくために、最低限必要な仕組み

